

第11号 出穂期以降の水管理編

庄内総合支庁 農業技術普及課

Tel. 0235-64-2103

「はえぬき」「雪若丸」はすでに**出穂期**、「つや姫」は**まもなく出穂期**。花水、そして**間断灌水**を徹底！

1 メリハリのある水管理で稲体活力の維持・登熟促進

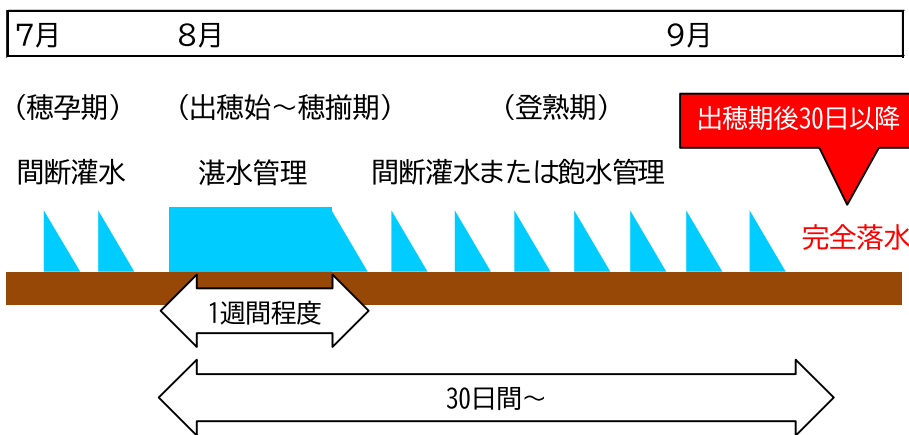
①出穂始から穂揃期にかけては**花水**

稲は出穂・開花の時に多くの水を必要とします。この時期の水不足は、穂の出すくみや不稔粒の原因となります。出穂始めから穂揃期までは水深2～3cmの湛水状態を保ちましょう(花水)。

②穂揃期後から出穂後30日頃までは**間断灌水**

登熟能力を支えるのは葉と根の活力であり、根は適度な水分と酸素を必要とします。そのために、間断灌水または飽水管理(右写真)を行いましょう。

湛水したままでは**根傷み**や**根腐れ**が生じ、特に高温時は長い時間高水温にさらされることになり、根のダメージがさらに大きくなります。湛水しっぱなしは絶対に避けましよう。



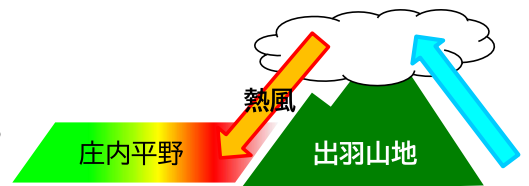
飽水管理



田面は露出しているも、足跡に水がしみ出してくればOK。

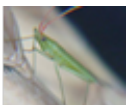
2 強風時は一時的に深めの水管理

フェーン現象や台風による強風は、稲体水分を低下させ、白穂や茶米の発生を招きます。強風時は、稲体の水分低下・消耗を防ぐために、**一時的に**水深3～5cmの湛水状態としましよう。その後は必ず間断灌水または飽水管理に戻しましよう。



3 斑点米カメムシ対策

2回の基本防除を徹底しましよう(1回目:穂揃期、2回目:穂揃期の7～10日後)。2回目防除後に水田内で斑点米カメムシ類を確認した場合は、2回目防除の7～10日後に補完防除を行いましよう(農薬の収穫前使用日数と使用回数を必ず確認)。



熱中症予防強化月間

定期的に水分と休憩を取らましよう



- ☑ 作業は涼しい時間帯に
- ☑ 定期的に休憩を

- ☑ 塩分と水分をこまめに補給
- ☑ 作業は涼しい服装で